

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月25日現在

機関番号： 14501
 研究種目： 基盤研究(C)
 研究期間： 2009～2011
 課題番号： 21530798
 研究課題名（和文）：ドイツ人芸術大学長達の内的外的亡命と戦後芸術大学改革への思想的・芸術教育学的展開
 研究課題名（英文） German Artist-Professors as the “Exiled and émigré” inside and outside of Germany under Nazi-Regime, who prepared their ideas about the Reformation of Art Academies (Art Colleges) and contribution to its realization in Germany and the USA during and after World War II.
 研究代表者
 鈴木幹雄 (MIKIO SUZUKI)
 神戸大学・人間発達環境学研究科・教授
 研究者番号：70163003

研究成果の概要（和文）：本研究では、内的・外的亡命芸術大学長・教授達による戦後芸術アカデミー・芸術大学改革という事象に関し、大西洋を超えて世界的規模で展開した戦後芸術アカデミー・芸術大学改革の動的ダイナミズムが、単に芸術学、芸術教育学の立場からだけでなく、亡命者研究、並びに芸術アカデミー改革史の視点と成果を踏まえて解き明かされた。モチーフは、戦後ベルリン造形芸術大学、カッセル芸術大学、シュトゥットガルト芸術アカデミー（以上、ドイツ）、シカゴのニュー・バウハウス、バウラック・マウンテン・スクール、ニューヨークのハンス・ホフマン・スクール（以上、合衆国）、これらの改革的芸術学校・芸術大学の戦後・戦中改革と同改革に関わった学長（学校長）とリーダー的教師達の貢献である。

研究成果の概要（英文）： German Artist-Professors as the “Exiled and émigré” inside and outside of Germany under Nazi-Regime, who prepared their ideas about the Reformation of Art Academies (Art Colleges) and contribution to its realization in Germany and the USA during and after World War II. This experiences of exile or emigration gave agonies to the artists and members of Artistic Colleges in Germany. But, this experiences brought some of them chances to realize the artistic or scientific heritages in the USA, or the possibilities of the reformation of Art Academies in Germany. With the help of scientific researches about the German exiled and emigrated people after the 1990s, we advanced our original academic research about the matter in higher stage.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：戦後芸術大学改革、内的・外的亡命者、芸術アカデミー改革

1. 研究開始当初の背景

(1)1930年代から1940年代にかけてナチズムが支配した時代、多くの知識人や、芸術家・芸術関係者達が国内外で外的亡命、あるいは内的亡命を余儀なくされた。

このことは、とりわけナチズムによって敵視された改革芸術学校バウハウスの教師の場合際立っていたが、それにとどまらず芸術上のモダニズムの洗礼を受けた多くの芸術関係者が、公職追放や展覧会禁止処置を受け、戦場に徴兵されるかドイツ国内で内的亡命を強いられた。またある場合にはアメリカ、イギリスやスイス等への亡命・移住を余儀なくされた。

(2)しかし負の歴史であった当該事象の裏側で、亡命芸術家達の苦悩と努力によって、例えばアメリカ合衆国に文化的・芸術的・学問的財産がもたらされると同時に、ドイツではナチズム崩壊後自国ドイツの戦後芸術大学改革を志す学長職の人材が用意された。

2. 研究の目的

(1)第二次世界大戦後の混乱の中で新しい時代への再出発を始めた時、内的外的亡命に耐えた芸術家達の中から、ナチズム崩壊後の戦後芸術大学の学長職に就き、戦後改革に方向設定を行おうとする人々が育った。

これまでわが国の文献では、これらの芸術家=学長・校長達に関して、ほとんど名前さえ知られておらず、その為全く視野に入れられてこなかった。そこで我々は、(1)彼らの1920年代の修業時代と、ナチズム時代の内的外的亡命の下での苦悩や思想形成過程を調べ、同時に(2)大戦後の困難な時代の中での改革提言と思想を調査・研究することにより、彼らがナチズム時代の苦悩や沈黙・制作・思索を通して、1950年代の戦後芸術大学改革構想や自らの芸術観をどのように形作っていたのか、この点を解明しようとした。

2)学長職に就いた上記の人々の中には、ベルリン造形芸術大学第一代学長となるK・ホフナー、同第二代学長となる建築家K・オットー、カッセルの芸術大学長となるJ・

エルンストの他、戦後ドイツ芸術アカデミー改革・芸術大学改革の精神的支柱、W・バウマイスター等がいた(ドイツ)。

また、1930年代末アメリカに移住し、シカゴのニュー・バウハウスの校長となるモホリ=ナギ、1930年にナチスの台頭を嫌ってアメリカへ移住した、ニュー・ヨークのハンス・ホフマン芸術学校校長ハンス・ホフマン等改革派の芸術大学長・学校長がいた(アメリカ)。

(3)本課題研究では、亡命・移住者達によって戦中・戦後何が用意され、戦後の芸術アカデミー改革と芸術大学・学校改革の原点がどのように設定されたのか、この研究に挑戦した。

3. 研究の方法

(1)研究モチーフ:本研究では以下のモチーフを取り上げた。

①カール・ホフナー(ベルリン造形芸術大学長):安部順子(研究協力者、K・ホフナー研究者(神戸大学大学院博士後期課程修了者))、②K・オットー(ベルリン造形芸術大学長):長谷川哲哉、③J・エルンスト(カッセル芸術大学長):石川潤(研究協力者、宇都宮美術館)、④W・バウマイスター(シュトゥットガルト芸術大学教授):鈴木幹雄、⑤モホリ=ナギ(シカゴ、ニュー・バウハウス校長):普照潤子(研究協力者、ニュー・バウハウス研究者(神戸大学大学院博士後期課程修了者))、⑥J・アルバース(ブラックマウンテン・スクール教師):小橋諒(研究協力者、J・アルバース研究者(神戸大学大学院博士前期課程修了者))、⑦H・ホフマン(ニュー・ヨーク、ハンス・ホフマン芸術学校長):安木理恵(研究協力者、H・ホフマン研究者(同上))。

(2)研究方法・研究分担者の相互関係:

研究は、以下のような方法と研究分担で行われた。

平成21年度の研究手法:

同年度には、以下の海外文献調査・研究を行うと同時に、既に入手した専門的資料・理解を基に国内で研究・分析を行った。

A. 海外文献調査・研究:

i) テーマ：ベルリン造形芸術大学第二代学長 K・オットーの亡命中の苦悩と戦後芸術大学改革へのその思想的・芸術教育学的展開（担当：長谷川哲哉、調査地域：ベルリン）。

ii) テーマ：カッセル芸術大学長 J・エルンストの亡命中の苦悩と戦後芸術大学改革へのその思想的・芸術教育学的展開（担当：石川 潤、主要調査地域：カッセル）。

B. 文献に基づいた分析・研究：テーマ：

i) 共通テーマ：ナチズム期における学長・指導的芸術家の亡命中の苦悩（担当：鈴木幹雄）。

ii) テーマ：ベルリン造形芸術大学長 K・ホーファーの亡命中の苦悩と戦後芸術大学改革へのその思想的・芸術教育学的展開（担当：安部順子）。

iii) テーマ：ベルリン造形芸術大学第二代学長 K・オットーの亡命中の苦悩と戦後芸術大学改革へのその思想的・芸術教育学的展開（担当：長谷川哲哉）。

iv) テーマ：カッセル芸術大学長 J・エルンストの亡命中の苦悩と戦後芸術大学改革へのその思想的・芸術教育学的展開（担当：石川 潤）。

v) テーマ：シュトゥットガルト芸術大学教授 W・バウマイスターの亡命中の苦悩と戦後芸術大学改革への思想的・芸術教育学的展開についての予備的研究（担当：鈴木幹雄）

vi) テーマ：シカゴ、ニュー・バウハウス・インスティテュート・オブ・デザイン学長 L・モホリ=ナギの亡命中の苦悩と戦中・戦後改革へのその思想的・芸術教育学的展開（担当：普照潤子）。

vii) テーマ：ハンス・ホフマン芸術学校長ハンス・ホフマンのアメリカ移住時の苦悩と戦中・戦後芸術学校改革へのその思想的・芸術教育学的展開（担当：安木理恵）。

平成 22 年度の研究方法：

同年度には、次のような研究・分析を行い、同時に平成 21-22 年度主要設備から得られる知識・理解と、同 21-22 年度の海外文献調査・研究や国内での文献に基づく分析・研究で得

られた知識・理解とを探求的にまとめた。

A. 海外文献調査・研究：

i) テーマ：シュトゥットガルト芸術大学教授 W・バウマイスターの亡命中の苦悩と戦後芸術大学改革への思想的・芸術教育学的展開（担当：鈴木幹雄、主要調査地域：シュトゥットガルト）

B. 文献に基づいた分析・研究：テーマ：

i) テーマ：ベルリン造形芸術大学における学長 K・オットーの亡命中の苦悩と戦後芸術大学改革へのその思想的・芸術教育学的展開（担当：長谷川哲哉）。

ii) テーマ：カッセル芸術大学長 J・エルンストの亡命中の苦悩と戦後芸術大学改革へのその思想的・芸術教育学的展開（担当：石川 潤）。

iii) テーマ：ベルリン造形芸術大学学長カール・ホーファーの亡命中の苦悩と戦後芸術大学改革へのその思想的・芸術教育学的展開（担当：安部順子）。

iv) テーマ：シカゴ、ニュー・バウハウス・インスティテュート・オブ・デザイン学長：L・モホリ=ナギの亡命中の苦悩と戦中・戦後改革へのその思想的・芸術教育学的展開（担当：普照潤子）。

v) テーマ：ハンス・ホフマン芸術学校長ハンス・ホフマンの移住中の苦悩と戦中・戦後芸術学校改革へのその思想的遺産（担当：安木理恵）。

平成 23 年度の研究方法：

同年度には、前年度迄の調査・研究で入手した専門的知識を基に、研究を統合的にまとめると同時に、本プロジェクト研究上補強すべき箇所の推進に努めた。

4. 研究成果

平成 21(2009/10)年度には、次のような研究成果が得られた。ドイツ語圏の当該事象に関して、鈴木幹雄・長谷川哲哉により編著『バウハウスと戦後ドイツ芸術大学改革』が形にされた。また鈴木幹雄により学会発表「シュトゥットガルト・アカデミー出身のモダニズム芸術家 W・バウマイスターにみる芸術教育

と芸術教育観について」が行われた。また、長谷川哲哉によりベルリン造形芸術大学元学長 K・オットーについての現地調査・文献調査がなされ、論文「改革芸術学校バウハウスの教育学的前提—バウハウス初代学長グロピウスの教育学的構想を中心に—」がまとめられた。更に研究協力者、石川潤によりカッセル芸術大学元学長 J・エルンストについての現地調査・文献調査がなされと同時に、中間報告論稿「ユップ・エルンスト Jupp Ernst 1905-1987」がまとめられた。以上に加え、研究協力者安部順子により、学会発表「ベルリン造形芸術大学における戦後第三世代芸術教育学者リューデン氏の課題意識について—戦後ベルリン造形芸術大学改革と芸術教育学への影響を手掛りとして—」が行われた。

他方、アメリカ合衆国における当該事象に関して、研究協力者、小橋諒と鈴木幹雄との共著論文「アメリカにおける改革芸術学校ブラック・マウンテン・カレッジの芸術教育—学長 J・A・ライスの教育理念とバウハウス教師 J・アルバースの芸術教育上の貢献について—」が発表された。また、研究協力者普照潤子により、学会報告「アメリカにおける亡命ヨーロッパ人芸術家たちの苦悩と学問的貢献：バウハウス出身学長 L・M・ナギの事例について」がまとめられ、報告された。

平成 22 年度(2010/11)の研究では、鈴木幹雄により本年度のシュトゥットガルトでの現地調査・研究を踏まえ、論文「内的亡命に耐えたドイツ人モダニズム芸術家 W・バウマイスターに見る芸術教育と芸術教育観について」が公開された。他方また昨年度の現地調査・研究を踏まえて、長谷川哲哉により、ベルリン造形芸術大学元学長 K・オットーについての論文「K・オットーのバウハウス観 [I]—ベルリン造形芸術大学第二代学長就任直後までの経歴と言説から—」が発表され、加えて研究協力者石川潤（と鈴木）により共著論文「現代的要請と芸術教育学的遺産とのほさまに位置する図工・美術系教科カリキュラムについて—ノルトライン=ヴェストファー

レン州における芸術教育学の伝統—(上)」が公開された。更に、研究協力者安部順子により論文「K・ホーファーにみる芸術アカデミー批判とアカデミー改革の思想」が公にされ、同普照潤子により、論文「亡命バウハウス教師 L・M・ナギの芸術教育学上の苦闘とシカゴにおける芸術学校改革」が発表された。

平成 23 年度(2010/11)の研究では、平成 22 年度鈴木幹雄によりなされたシュトゥットガルトにおける現地調査・文献調査を踏まえ、学会発表「W・バウマイスターにみるモダン・アーティストの情熱と戦後アカデミー改革—フランス・モダンアートの洗礼を受けた一芸術家は内的亡命に耐える中で何を構想したか—」が行われた。また長谷川哲哉により、ベルリン造形芸術大学戦後第二代学長 K・ホーファー研究の一環として、論文「バウハウスにおける創造性教育の成功の諸要因とその関係」が公にされた。

更に、研究協力者石川潤により、カッセル芸術大学元学長 J・エルンストについての平成 21 年度現地調査・文献調査を踏まえて、論文「ユップ・エルンストの戦後—改革コンセプト「良いフォルム」とドクメンタⅢの周辺」がまとめられた(冊子体報告書収録予定)。更に研究協力者安部順子より、論文「K・ホーファーにみる芸術アカデミー批判とアカデミー改革の思想—1945 年から 1955 年の遺稿を手掛かりとして—」が公表された。

2012 年 6 月、本課題テーマに即して、本研究の研究成果が、冊子体形式による本科研成果報告書として印刷される。更には近年出版社から書籍出版としてまとめられる予定である。ちなみに、本科研冊子体成果報告書は次の通り。

本科研冊子体成果報告書の目次 (印刷中)
第 I 部：アメリカ合衆国における亡命ドイツ人芸術学校教授と戦中・戦後芸術学校改革へのその貢献

第 1 章：1940-50 年代シカゴにおける芸術学校改革とバウハウス教育学の影響について (鈴木、元原稿：2008.3 論文)

第2章：亡命バウハウス教師L・モホリ=ナギの芸術教育学上の苦闘とシカゴにおける芸術学校改革（普照、元原稿：2010.9論文）

第3章：改革芸術学校ブラック・マウンテン・カレッジ学長J・A・ライスの教育理念とバウハウス教師J・アルバースの芸術教育学上の貢献（小橋・鈴木、元原稿：2009.9論文）

第4章：アメリカに渡ったドイツ人芸術教育者ハンス・ホフマンの芸術教育と芸術教育理論の改革的性格について（安木・鈴木、元原稿：2008.3論文）

第Ⅱ部：ドイツ連邦共和国におけるドイツ人芸術学校教授達の内的・外的亡命と戦後芸術大学改革の展開

第5章：W・バウマイスターにみるモダン・アーティストの情熱と戦後アカデミー改革——フランス・モダンアートの洗礼を受けた一芸術家は内的亡命に耐える中で何を構想したか——（鈴木、新規原稿）

第6章：内的亡命に耐えたドイツ人モダニズム芸術家W・バウマイスターに見る芸術教育と芸術教育観について（鈴木、2010.3論文）

第7章：戦後ベルリン芸術大学改革と演説原稿にみる初代学長K・ホーファーの改題意識について（安部、元原稿：2009.9論文）

第9章：戦後ベルリン芸術大学第2代学長K・オットーと芸術大学改革（長谷川、元原稿：2010.12論文）

第8章：戦後カッセル芸術大学における学長J・エルンスト——カッセル工芸大学における改革コンセプトとしての「良きフォルム」とドクメンタⅢへの挑戦（石川 潤、新規原稿）

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計13件）

①安部順子（研究協力者）、1920年代ホーファーの芸術観・芸術教育観にみる芸術アカデミー改革思想の端緒————同時代の改革芸術学校バウハウスとの対決を中心として——、美術科教育学会『美術教育学』、査読有、第33号、2012年、pp.25-37

②長谷川哲哉、バウハウスにおける創造性教育の成功の諸要因とその関係、和歌山大学大学院教育学研究科美術教育専修紀要『造形芸術研究』、査読なし、第17号、2011年、pp.21-37

③石川 潤（研究協力者）、『機械の椅子』と『椅子の動物』——バウハウス史の断面から、宮城県美術館・宇都宮美術館・新潟県立万代島美術館[編]『宮城県美術館・宇都宮美術館 所蔵作品による クレーとカンディンスキーの時代[展覧会図録]』、査読なし、2011年、p.168

④安部順子（研究協力者）、K・ホーファーにみる芸術アカデミー批判とアカデミー改革の思想—1945年から1955年の遺稿を手掛かりとして—、神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要、査読有、第4巻第2号、2011年、pp.19-28

⑤鈴木幹雄、内的亡命に耐えたドイツ人モダニズム芸術家W・バウマイスターに見る芸術教育と芸術教育観について、美術科教育学会『美術教育学』、査読有、第32号、2011年 pp.197-212

⑥鈴木幹雄・石川 潤（研究協力者）、現代的要請と芸術教育学的遺産とのはざまに位置する図工・美術系教科カリキュラムについて——ノルトライン=ヴェストファーレン州における芸術教育学の伝統——（上）、神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要、査読なし（研究報告）、第4巻第2号、2011年、pp.155-170

⑦長谷川哲哉、K・オットーのバウハウス観〔I〕——ベルリン造形芸術大学第二代学長就任直後までの経歴と言説から——、和歌山大学大学院教育学研究科美術教育専修紀要『造形芸術研究』、査読なし、第16号、2010年、pp.17-50

⑧普照潤子（研究協力者）、亡命バウハウス教師L・M・ナギの芸術教育学上の苦闘とシカゴにおける芸術学校改革、神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要、査読有、第4巻第1号、2010年、pp.47-56

⑨安部順子（研究協力者）、K・ホーファーにみる芸術アカデミー批判とアカデミー改革の思想、神戸大学大学院人間発達環境学研究科研

究紀要、査読有、第4巻第1号、2011年、pp.19-28

⑩小橋 諒(研究協力者)・鈴木幹雄、アメリカにおける改革芸術学校ブラック・マウンテン・カレッジの芸術教育—学長J・A・ライスの教育理念とバウハウス教師J・アルバースの芸術教育上の貢献について—、神戸大学大学院人間発達環境学研究科紀要、査読有、3巻第1号、2009年、pp.57-64

⑪長谷川哲哉、改革芸術学校バウハウスの教育学的前提—バウハウス初代学長グロピウスの教育学的構想を中心に—、和歌山大学大学院教育学研究科美術教育専修紀要、造形芸術研究、査読なし、第15号、2010年、pp.59-83

⑫長谷川哲哉、バウハウスにおける工房訓練の改革教育学的前提—初期バウハウスの教師J・イッテンに影響を与えたE・シュナイダーの教育思想を中心に—、和歌山大学学芸会『学芸』、査読なし、第56号、2010年、pp.1-16

⑬安部順子(研究協力者)、戦後ベルリン造形芸術大学改革と演説原稿にみる初代学長K・ホーファーの課題意識について、神戸大学大学院人間発達環境学研究科紀要、査読有、3巻第1号、2009年、pp.49-56

【学会発表】 (計4件)

①鈴木幹雄、W・バウマイスターにみるモダン・アーティストの情熱と戦後アカデミー改革—フランス・モダンアートの洗礼を受けた—芸術家は内的亡命に耐える中で何を構想したか—、美術科教育学会、2012.03.27、新潟大学

②安部、ベルリン造形芸術大学における戦後改革と学長K・ホーファーの芸術アカデミー改革、美術科教育学会、2012.03.27、新潟大学

③長谷川哲哉・鈴木幹雄、Topic: digital media, pop culture and art education、第二回 UNESCO 国際芸術教育コンフェレンス(ソウル)、2010年5月26日、Coex Convention & Exhibition Center, Seoul

④鈴木幹雄、シュトゥットガルト・アカデミ

—出身のモダニズム芸術家 W・バウマイスターにみる芸術教育と芸術教育観について—、美術科教育学会、2010.03.28、仙台メディアテーク (大会 開催校: 宮城教育大学)

【図書】 (計2件)

①鈴木幹雄・長谷川哲哉編著、あいら出版、子どもの心に語りかける表現教育 多様なアプローチと発想を探る、2012年、p.213

—石川 潤、美術館連絡協議会、宮城県美術館・宇都宮美術館・新潟県立万代島美術館[編]『宮城県美術館・宇都宮美術館 所蔵作品によるクレーとカンディンスキーの時代[展覧会図録]』、2011年、p.168

②鈴木幹雄・長谷川哲哉編著、風間書房、バウハウスと戦後ドイツ芸術改革、2009年、p.10+p.321

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木幹雄 (MIKIO SUZUKI)

神戸大学・人間発達環境学研究科・教授
研究者番号: 70163003

(2) 研究分担者

長谷川哲哉 (TETSUYA HASEGAWA)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号: 50031810

(3) 連携研究者: 該当事項なし

(4) 研究協力者: 普照潤子、安部順子、小橋諒、安木理恵(所属、3.研究の方法(1)参照)